



清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

1年間のご支援ありがとうございました

本日、午前中に卒業式を行い、80名の卒業生が希望を胸に羽ばたいていきました。午後には修了式が行われ、令和6年度204日にわたる教育課程を修了することができました。全ての子供が大きな事故なくこの日を迎えられたことが、何よりもうれしいです。

清水小学校は本年度「動き出す子」を重点目標とし、日々の教育活動に取り組んできました。子供自らの自己決定をお互いに尊重したり、可能な限り体験的な活動を取り入れたりと、子供たちが生きるこれからの社会に「生きる力」の育成を念頭に全職員が教育実践をしてきました。運動会の応援合戦での熱量やカーニバルでの生き生きとした表情、温かな雰囲気にも包まれた6年生を送る会からは、学校行事とりわけ児童会行事が子供たちの成長に果たす役割を再確認しました。学校教育が大きな改革期を迎えていることは、何度かお伝えさせていただきましたが、そこに至る過程は、まだまだ道半ばです。次年度も歩みを止めることなく、子供たち向き合っていきます。

先日、学校では感謝の会を行いました。学校運営協議委員、区長、民生児童委員、交通指導員、見守り隊、読み聞かせボランティア、遊具を寄付いただいた山一金属の皆さんをお招きし、子供たちから手紙と歌をプレゼントしました。ご参加いただいた方からは「子供たちの元気な歌声に感動した。」「手紙がうれしかった。」と感想をいただきました。学校がたくさんの地域の方に支えられていることに子供たち、教職員ともに感謝の気持ちを伝えることができました。

保護者の皆様には、この1年さまざまなご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。明日からの春休み、子供たちにとって、新年度の期待が高まる準備の日々になるよう、お声かけや見守りをお願いします。



校長 武藤 剛

改めて、「自りつする」を育むために、私たち大人にできそうなこと

次年度の清水小学校の重点目標は「自りつする」です。ChatGPT に、「小学校の学校便りとして、保護者に、子供が『自りつする』ためにできることを提案する文章を、1000 文字程度で書いてください」というプロンプトを入れ、ものの 30 秒もせずに提案してくれた文章が以下の内容です。こちらで少し手を加えて、ご紹介します。

まず、**子どもに「自分でできることを増やす」**ことが大切です。日常生活の中で、子どもが自分でできる範囲を広げていくことが、自己肯定感を育てる一歩となります。例えば、身の回りの整理整頓など、小さなことでも自分でやってみる経験が自信につながります。最初はうまくいなくても、成功体験を積み重ねることで、次第に自分の力を信じられるようになります。

次に、**子どもが自分の意見をしっかりと伝える力を育む**ことも大切です。家庭内での会話を大切にし、子どもの意見や考えを尊重しましょう。例えば、「今日は何をしたい？」と質問し、子どもが自分の希望を表現できる場を作ることが重要です。その際、しっかりと耳を傾け、肯定的に受け入れる姿勢を見せることが、子どもにとって自分の意見を大切に作る自信を育てます。

さらに、**失敗や困難に対する前向きな姿勢を見せる**ことも、子どもの自りつに繋がります。子どもが失敗したりうまくいかなかったりしたとき、保護者としてどう接するかが大切です。「失敗しても大丈夫、次はどうしたらいいかな？」という言葉で励まし、ポジティブな考え方を促すことが、子どもの精神的な成長を助けます。失敗を恐れずにチャレンジする気持ちを育てることが、最終的には自立に繋がります。

また、**子どもに責任感を持たせる**ことも重要な要素です。家庭でできる責任を持たせることは、子どもが自りつするための基盤となります。例えば、家族の一員としての役割を担わせることは、責任感や協力の大切さを学ぶ良い機会です。最初は少し難しいかもしれませんが、小さな責任を果たすことで、子どもは自分の力で物事を成し遂げる喜びを感じることができます。

そして、子どもには**「自分のペースで進んでいく力」を育む環境を提供する**ことが大切です。他の子と比べることなく、子ども一人一人のペースを尊重し、焦らずに見守ることが重要です。比較や過剰なプレッシャーが子どもの自信を損なうことがありますので、あくまで「できたこと」を褒めることを意識しましょう。困ったときに、すぐに手を貸すのではなく、自分で考えさせる時間を与えることも、自りつ心を育てるためには欠かせません。

どの内容も、「その通り!」と思わせる内容ばかりで、「家庭」を「学校」に置き換えが可能。他方、この文章を読んで思うことは2つ。1つは、「学び」や「知」のあり方そのものが、生成 AI の進歩でどのように変わるのだろうかということ。換言すれば、今、小学校で「大切だ」と思って学んでいる学習内容（漢字や計算などに代表される「基礎学力」が代表格）が、この先、どのような意味をもつのだろうかということです。もう1つは、AI が作るものは高度に一般化された内容であるため、文章であれば「私らしさ」が一切排除されてしまうということです。読んでくださっている保護者に「私の」メッセージを伝えたい場合には、その「熱」がなくなってしまう寂しさがあります。結局は、AI は道具。どのように付き合っていくかが、今後大きなテーマになりそうです。

個人的には、一番下にある**「困ったときに、すぐに手を貸さず、自分で考えさせる」**という点に強く納得します。今期放映されている「御上先生」という TV ドラマ（主体性と当事者性についても、社会に問う内容です）で、松坂桃李さん演じる御上先生のよく使う「そうだね（受容）」「考えて！（促し）」というシンプルな 2 つのパワーワードにも、子供たちの「自りつする」を促すヒントが隠されているような気がしてなりません（K）。